

ウススジハエトリの外雌器変異

池田 博明

Hiroyoshi IKEDA: The epigynum variation of *Yaginumaella striatipes* (Salticidae)

ウススジハエトリは 1972 年に八木沼健夫によって *Pellenes* 属の新種として記載され、1976 年にプルシンスキーによって *Yaginumaella* 属のタイプ種に設定された日本の代表的な丘陵帯・山地帯に生息するハエトリグモである。1992 年に Wesolowska が *Yaginumaella striatipes* (Grube 1861) のシノニムとしたが、プルシンスキーは日本・樺太・サハリンの種に関してはこれを認めず、*Yaginumaella ususudi* (Yaginuma 1972) としている。プルシンスキーが重要視する *Y. striatipes* と *Y. ususudi* の違いはメスの外雌器構造にある。ところが、ウススジハエトリの外雌器の形態には変異がある。変異は交尾孔を備えるフラップの形や左右のフラップの開度、外皮を透して見える受精管の様子などにある。特にフラップの形や開度は種を同定するときの重要な標徴のひとつと考えられているので、外雌器の変異の範囲を認識することは重要である。本稿は手元にある標本の範囲でウススジハエトリの外雌器の形態変異を紹介することが目的である。

1 ウススジハエトリの一般的形態

ウススジハエトリは関東地方の平地では見かけないが、丘陵帯上部から高山帯にまで広く生息している。個体数も多い。腹部背面は灰褐色で山形斑があり、メスに比べるとオスはやや黒味が強い。ただし、メスには頭胸部が黒っぽく、腹部背面にスジ模様のない変異個体もいる(図 1 下段)。

生殖器の構造は雌雄とも特異である(図 2 及び図 4)。近似種としてエビスハエトリ *Yaginumaella hyogoensis* Bohdanowicz & Prószyński 1982 が記載されているが、その正体は不明で、ウススジハエトリの変異個体である可能性がある。

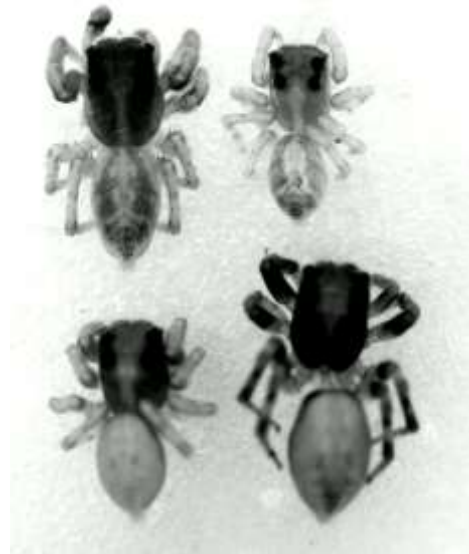


図 1 ウススジハエトリ *Y.striatipes* 外観
(上段左♂, 右♀, 下段♀♀)

Fig.1 Appearance of *Y.striatipes*

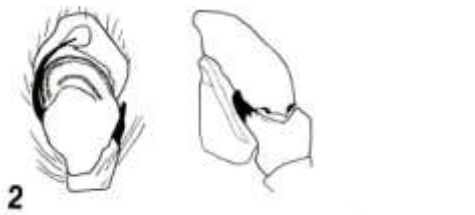


図2 ウススジハエトリ 触肢
Fig.2 The male palp of *Y.striatipes* from Japan



図3 キョクトウウススジハエトリ 触肢と外雌器
Fig.3 The male palp and epigynum of *Y.medvedevi* from Korea

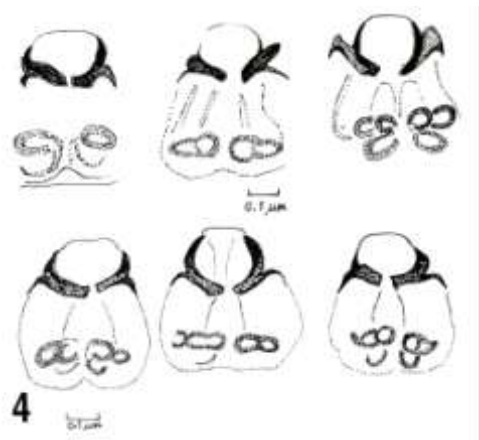


図4 ウススジハエトリ 外雌器変異
Fig.4 The epigynum variation of *Y.striatipes* from Japan

2 ウススジハエトリの外雌器の形態変異

メスの外雌器のフラップの形態と開度には変異がある。

図4 上段は左から神奈川県箱根町大涌谷（1986年8月1日池田採）のメス①とメス②，群馬県赤城神社（1981年8月9日池田採），図4 下段は左から神奈川県丹沢雷山（1981年7月17日熊田憲一採）のメス①，メス②，メス③である。外雌器上方のフラップが首輪のように上まで伸びている個体（赤城神社や雷山②）もあればやっとならば半分には達している個体（大涌谷②，雷山③）もある。

外雌器下部に集まっている受精管の見え方も個体によりかなり異なって見える。別種としてしまいそうな変異であるが，同地点で採集されているオスの触肢には違いはなく，種内変異の範囲であると判断できる。このほかにも本州の各地方で採取された標本を検査したが，いずれも図4の形態のいずれかに似ていた。

沖縄県（別種が生息している可能性がある）と兵庫県（エビスハエトリのタイプ・ロカリティがある）に関しては，じゅうぶんな標本が採取されて後に精査を必要とすると考えているので，本稿では論じない。

3 キョクトウウススジハエトリとの比較

日本には生息していないが，韓国には類似種のキョクトウウススジハエトリ（新称）*Yaginumaella medvedevi* Prószyński 1979 が生息している。この種の斑紋はウススジハエトリそっくりである（図5。韓国・五寺山産，標高780m，1980年8月31日池田採）が，メスの外雌器の構造，特に受精管の構造はまったくウススジハエトリと異なっている（図3右）。また，オスの触肢構造も明らかにウススジハエトリとは異なっていた（図3左・中）。

4 ウススジハエトリゲモ属の学名について

プルシンスキーは日本のウススジハエトリはシベリアの *Y.striatipes* とは異なると主張するが、再記載の図等からは日本産のウススジハエトリは *Y.striatipes* の変異の範囲内に入るし、オスの触肢は共通である。また、プルシンスキーが精査した日本産のメスの標本はいったんエタノールが飛んだ状態の悪いものであった。現在のところ日本産ウススジハエトリを *Y.striatipes* と同定しても不都合はないと判断できる。

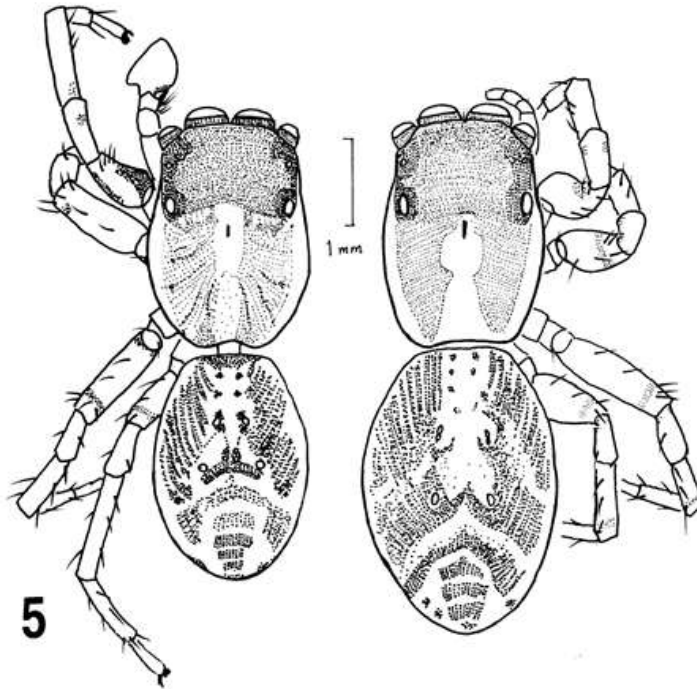


図5 キョクトウウススジハエトリ 外観 (左♂, 右♀)

Fig.5 Appearance of *Y.medvedivi* from Korea

参考文献

- Bohdanowicz A. & Prószyński J. 1987. Systematic studies on East Palearctic Salticidae (Araneae). IV. Salticidae of Japan. *Annales Zoologici, Warszawa*, 41.2: 43-151.
- Prószyński J. 2012. Monograph of the Salticidae (Araneae) of the world. 1995-2011. On internet. <http://www.miiz.waw.pl/salticid/main.htm>